

# 1149. 可解群 = 関スルー注意

岩澤 健吉 (東大)

1. 群  $G = G_1$ , 交換子群  $\gamma G_1 = G_2$ ,  $G_2$ , 交換子群  $\gamma G_2 = G_3$ , ..... 一般 =  $G_n$ , 交換子群  $\gamma G_n = G_{n+1}$  トシマス。コノトキ適當ナル  $n$ ニ對シ

$$G_n = 1 \dots \dots \dots (1)$$

トナルヲバ始メ、群  $G$ ヲ可解 (auflösbar) ト云フコトハ有限群論ヲ周知ノ通りデアリマスガ、我々ハ以下  $G$ ガ無限群ノ場合ニモ條件 (1)ヲ以テ可解ノ定義トスルコトニシマス。<sup>1)</sup>

サテ、以上ハ一般ノ abstract + 群ニツイテノ話デアリマスガ今度ハ  $G$ ガ位相群デアル場合ヲ考ヘテ見マス。 $G$ ノ交換子群  $G_2$ ノ abstract + 意味ヲハ確カニ  $G$ ノ部分群デアリマスガ位相ヲ考ヘ入レルト必ずシモ  $G$ ニ於テ隔テテキマセン。(ソノ例ハ後ニ示ス) ヨツテ位相群トシテ、 $G$ ノ交換子群トシテハ  $G_2$ ノ closure  $\overline{G_2} = G_2^*$ ヲトルコトが適當ト思ハレマス。實際  $G_2^*$ ハ  $G/G_2$ ガ abel 群デアル様ナ  $G$ ノ 閉 + 不変 部分群  $H$ ノクチテ最小ノモノトナリマス。

ヨツテ  $G = G_1^*, G_1^*$ , 位相的交換子群  $\gamma G_1^* = G_2^*, G_2^*$ ノ位相的交換子群  $\gamma G_2^* = G_3^*$ , ..... 一般 =  $G_n^*$ ノ位相的交換子群  $\gamma G_n^* = G_{n+1}^*$ トオクコトニシ、(1)ト同様ニ適當ナル  $n$ ニ對シ

$$O_n^* = 1 \dots \dots \dots (2)$$

が成立スルトキ  $O_n$  を 位相的 = 可解 と呼ぶコト = シマス。

ソシテ (1) の場合ハコレ = 對シ代數的 = 可解 と特 = 断ハル

コト = シマス。

サテ次ノ定理が成立チマス。

**定理 1.** 位相群  $O_n$  が代數的 = 可解デアアルコトト位

相的 = 可解デアアルコトトハ同等デアアル。シカニ (1), (2) ハ

同シル = 對シ同時 = 成立スル。

コレヲ証明スルタメニ一般ニ次ノ補助定理ヲ述ベテオキマス。

**補助定理 1.**  $h_y$  を位相群  $O_n$  の、必ずシニ閉ゲテ干ナイ部分群トシ  $\overline{h_y}$  をソノ closure トスル。 $h_y$  の代數的交換

子群列ヲ  $h_{y_1} = h_y, h_{y_2}, h_{y_3}, \dots$  トシ、又  $\overline{h_y}$  の位相的

交換子群列ヲ  $h_{y_1}^* = \overline{h_y}, h_{y_2}^*, h_{y_3}^*, \dots$  トスレバ

$$\overline{h_{y_n}} = h_{y_n}^* \quad (n=1, 2, \dots) \dots \dots (3)$$

**証明.**  $n=1$  ナルトキ

$$\overline{h_{y_1}} = \overline{h_y} = h_{y_1}^*$$

ハ定義ニヨリ成立スルカラ  $n=2$  關シ帰納法ヲ用ヒルコ

トトシ

$$\overline{h_{y_{n-1}}} = h_{y_{n-1}}^* \dots \dots \dots (4)$$

ヲ假定シテ (3) を証明スルコト = シマス。定義 = ヌリ

$$h_{y_n} = [h_{y_{n-1}}, h_{y_{n-1}}], \quad h_{y_n}^* = \overline{[h_{y_{n-1}}^*, h_{y_{n-1}}^*]}^{(2)}$$

(4) = ヌリ  $h_{y_{n-1}} \subseteq h_{y_{n-1}}^*$ , 故ニ  $h_{y_n} \subseteq [h_{y_{n-1}}^*, h_{y_{n-1}}^*]$ , コ

レオラ closure ヲトルハ  $\overline{h_{y_n}} \subseteq h_{y_n}^*$ . 又一方  $h_{y_{n-1}}/h_{y_n}$

abel 群デアールコトカラ容易 =  $\bar{h}_{y_{n-1}}/\bar{h}_{y_n}$  が abel 群デアールコトガワカリマスカラ

$[\bar{h}_{y_{n-1}}, \bar{h}_{y_{n-1}}] \subseteq \bar{h}_{y_n}$ , 即チ  $[h_{y_{n-1}}^*, h_{y_{n-1}}^*] \subseteq \bar{h}_{y_n}$   
closure フトレバ  $h_{y_n}^* \subseteq \bar{h}_{y_n}$ , ヌツテ (3) が証明サレ  
マシタ。

特 =  $h_y = o_y$  トスレバ定理1ヲ得マスガ特別ノ場合ト  
シテ又次ノ定理ガ得ラレマス。

定理2.  $h_y$  フ位相群  $o_y$  ノ稠密ノ部分群トスレバ  $h_y$   
ガ代数的 = 可解デアールトキ  $o_y$  ハ又位相的 = (又代数的 =)  
可解デアール。

2. 上ノ定理ノ應用ヲ述ベテ見マス。ソノタメニ先ッ

補助定理2. compact (bicomact) connected  
ノ可解群<sup>3)</sup> ハ abel 群デアール。

証明. ソノ様ノ群  $o_y$  が abel 群デアイト假定シ  
 $a b \neq b a$  ナル元  $a, b$  フトリマス。  $o_y$  ノ適當ノ連続有界  
表現  $D$  フトレバ  $D(a b a^{-1} b^{-1}) \neq E$ , 即チ  $D(a) D(b)$   
 $\neq D(b) D(a)$  トナリマスカラ表現サレタ群  $D(o_y)$  モ亦  
abel 群デアアリマセン。サテ一方  $D(o_y)$  ハ compact  
connected ノ Lie 群デスカラ local = ハソレハ  
abel 群ト非 abel 單純群トノ直積デアールワケデスカ  
今ノ場合  $o_y$  ハ (位相的 =) 可解デスカラ非 abel 群ノ部  
分ハ存在シマセン。即チ  $D(o_y)$  ハ local = ハ abelian  
デアリマスガ, ソレハ connected ナル故全体トシテモ

abel 群トナリマス。コレハ明カ =  $D(a)D(b) \neq D(a)D(b)$   
 = 矛盾シマス。

コレヲ用ヒテ

定理3.  $G$  ヲ十分多クノ概週期函数ヲ有スル可解群  
 トスル。但シ  $G$  = 位相ハ假定シナイ。  $G$  = 於テ指數  
 $[G: \mathcal{H}]$  が有限デアールマシト凡テノ不変部分群  $\mathcal{H}$  ノ共  
 通部分群ヲ  $\mathcal{H}_0$  トスレバ  $\mathcal{H}_0$  ハ abel 群デアール。

証明. 概週期函数ヲ用ヒテ  $G$  ヲ開テテ bicomact ナ  
 位相群  $\overline{G}$  ヲツクレバ  $G$  ハ  $\overline{G}$  = 於テ稠密ナ部分群トナリマ  
 ス。コレヲ定理2 ヲ用ヒレバ  $\overline{G}$  亦可解群デアールコトが知  
 ラレマス。  $\overline{G}$  ノ單位元ヲ含ム connected ナ component  
 ヲ  $\mathcal{H}^*$  トスレバ  $\mathcal{H}^*$  ハ明カ = connected bicomact ナ  
 可解群, ヨツテ補助定理ニヨリ abel 群デアアリマス。一方  
 $\overline{G}/\mathcal{H}^*$  ハ 0-次元群ナル故  $\mathcal{H}_0 \subseteq \mathcal{H}^*$ 。ヨツテ証明サレ  
 マシタ。

上ノ定理ハ逆ヲ考ヘテ見マスト可解ナ群  $G$  ナ上ノ如  
 ク = シテ作ツタ  $\mathcal{H}_0$  が abel 群デアールマシトモ、デアアツテ  
 必ずしも十分多クノ概週期函数ヲ有シテキルトハ限リマ  
 ケン。例ヘバ有理數  $a, b, c$  = ヨリツクラレタ。

$$\begin{pmatrix} a & c \\ 0 & b \end{pmatrix} \quad a \neq 0, b \neq 0$$

ノ如キ形ノ行列全体ノツクル群ハ、一例デアアリマス。

3. 最後ニ代數的交換子群  $G_2 = G'$  ト位相的交換子群  
 $G_2^* = \overline{G'}$  が一致シナイ例ヲ一ツ挙ゲテオキマス。

有理数全体、加法群ヲ  $\mathcal{R}_0$ 、實数全体、加法群ヲ  $\mathcal{R}$ 、  
トシ  $\mathcal{R}_0 \subset \mathcal{R}$ 、ト、直和 (直積) ヲ  $\mathcal{R}_0 \oplus \mathcal{R}$  トシマス。

$$\mathcal{R}_0 \oplus \mathcal{R} = \mathcal{R}_0 + \mathcal{R},$$

$\mathcal{R}_0 \oplus \mathcal{R}$ 、元ヲ一般ニ

$$A = (a, \gamma) \quad a \in \mathcal{R}_0, \gamma \in \mathcal{R},$$

トカクトヤ  $\mathcal{R}_0 \oplus \mathcal{R}$ 、自己同型  $\sigma$  ヲ

$$A^\sigma = (a, \gamma + a)$$

ニヨリ定義シ  $\mathcal{R}_0 \oplus \mathcal{R}$  ヲ  $\sigma$  カラ生成サレル自由環状群  $\{ \sigma^n \}$

ニヨリ拡張シテ群ヲ  $\mathcal{O}_\sigma$  トシマス。

$$\mathcal{O}_\sigma = \{ \mathcal{R}_0 \oplus \mathcal{R}, \sigma \}$$

サテ、 $\mathcal{R}_0, \mathcal{R}$ 、普通ノ位相ヲ入レレバ  $\mathcal{R}_0 \oplus \mathcal{R}$ 、連続ト  
自己同型ナル故、コレヲ拡張シテ  $\mathcal{O}_\sigma$  = 位相ヲ導入スルコ  
トが出来マス。(但シ  $\mathcal{O}_\sigma / \mathcal{R}_0 \oplus \mathcal{R}$  ハ discrete トナル)。  $\mathcal{O}_\sigma$ 、  
代数的交換子群ヲツクルト容易ニ面ヲレル様ニソレハ

$$\{ (0, a), \quad a: \text{有理数} \}$$

ナル形ノ元全体トナリ、ソノ closure

$$\{ (0, \gamma), \quad \gamma: \text{實数} \}$$

ハ異ルコトがワカリマス。

特注1) コノ様ト可解ノ定義ハ無限群ノ場合ニハ條件が強ス

キルヌトデアリマス。實際、R. Baer 其ノ他、ソノ

エツトノ學者達ハモット拡張シテ意味ニ可解ト云フ言

葉ヲ用ヒテキマス。

2)  $[ , ]$  ハ交換子群ヲ示ス。

脚註3) 定理1 = ヨリ代数的 = 可解デアリ同時 = 位相的 =  
可解デアリス。